

## 「施策」総括票

施策展開	3-(5)-エ	科学技術を担う人づくり	
施策	①科学技術の発展を担う人材の育成		208頁
対応する 主な課題	○本県の科学技術の振興及び製造業・情報通信関連産業をはじめとする本県産業の高度化に向けては、その担い手となる人材の育成・確保が重要であり、理数系大学等への進学者を増やすことは、本県のみならず全国的な課題である。このため、初等中等教育の段階から、子どもたちに科学(数学、理科)の楽しさや奥深さを体験させ、科学に対する興味や関心を高めていくことが重要な課題である。		
関係部等	企画部、教育庁		

### I 主な取組の推進状況 (Plan・Do)

(単位:千円)

平成24年度				
	主な取組	決算見込額	推進状況	活動概要
<b>○科学技術を担う子どもの育成</b>				
1	沖縄科学技術向上事業	3,059	やや遅れ	○「科学の甲子園全国大会」の県予選である「沖縄科学グランプリ」を開催したが、沖縄科学グランプリ参加校数は計画値20校に対し、12校にとどまったためやや遅れとなった。(1)
2	沖縄サイエンスキャラバン構築事業	82,384	順調	○沖縄の科学技術・産業振興を担う人材を育成するため、研究機関や企業等による出前講座等を20回開催した。(2)
3	スーパーサイエンスハイスクール指定に向けた取組	-	順調	○県立球陽高等学校が文部科学省が行うスーパーサイエンスハイスクール指定校として採択された。(3)
4	「科学の甲子園全国大会」への派遣	3,059	順調	○「沖縄科学グランプリ」で1位となったチームの8名を「科学の甲子園全国大会」へ派遣した。(4)
5	理科支援員等配置事業	13,441	順調	○小学校27校に理科支援員を配置し、小学校5、6年生の理科授業における観察・実験等の充実を図った。(5)
6	海外サイエンス体験短期研修 (グローバル・リーダー育成海外短期研修事業)	12,106	順調	○理系高校の生徒25人をカナダに派遣し、短期研修プログラムを行った。(6)

様式2(施策)

Ⅱ 成果指標の達成状況 (Do)

(1) 成果指標

1	成果指標名		基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
	学校現場等における出前講座開催件数		44件 (23年)	98件 (24年)	50件	54件	—
	状況説明	学校現場等における出前講座開催件数は、基準値と比較して54件の増加となっている。					
2	成果指標名		基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
	理系大学への進学率		13.8% (23年)	13.0% (24年)	20%	△0.8ポイント	20%
	状況説明	理系大学への進学率は基準値と比較して、0.8ポイントの減となっている。「科学の甲子園全国大会」への派遣等の取組を推進していくことにより、生徒の科学に対する関心を高め、理系大学への進学率アップにつなげる。					
3	成果指標名		基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
	「沖縄科学グランプリ」参加校数		14校 (23年)	12校 (24年)	20校	△2校	—
	状況説明	「沖縄科学グランプリ」への宮古、八重山地区からの各2校の参加を見積もったが、宮古地区から1校の参加にとどまった結果、参加校数は12校と平成23年度の参加校数を2校下回った。					
4	成果指標名		基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
	「科学の甲子園全国大会」での順位		11位 (23年度)	8位 (24年度)	10位	3位	—
	状況説明	兵庫県で第2回科学の甲子園全国大会が開催され、県代表の昭和薬科大学附属高等学校が総合8位となり、平成28年度目標値を達成した。また、同大会で協賛企業の特別賞も受賞した。引き続き、「科学の甲子園全国大会」への派遣を行い順位アップを目指す。					

(2) 参考データ

参考データ名	沖縄県の現状			傾向	全国の現状
スーパーサイエンスハイスクール指定校数	0校 (23年)	0校 (24年)	1校 (25年)	↗	201校 (25年)

## 様式2(施策)

### Ⅲ 内部要因の分析 (Check)

- ・「科学の甲子園全国大会」の県予選である「沖縄科学グランプリ」参加校数は、計画値20校に対し12校にとどまった。限られた学校だけの参加にならないよう、参加校の増加の工夫が必要である。
- ・理科支援員等配置事業については平成24年度で事業が終了したが、理科支援員配置事業実践事例報告書等を活用した授業改善に取り組む必要がある。

### Ⅳ 外部環境の分析 (Check)

- ・社会・経済発展の原動力である科学技術の振興に向け、科学技術の土台である理数教育の充実が求められている。
- ・学校教育現場以外の科学技術に触れる機会のある場として、学童保育施設の現状調査を行った結果、施設数や学童の放課後を過ごす環境の違いなど地域ごとに課題があることが判明した。

### Ⅴ 施策の推進戦略案 (Action)

- ・「沖縄科学グランプリ」参加校数の増加を図るため、理科教育に関する研究会等への周知を行うほか、各学校の理科科目の担当者に直接呼びかけるなど取組を強化する。
- ・全国学力・学習状況調査等で明らかとなった課題に対する理科支援員の活用方法等、理科教育の現状と課題を踏まえた理科支援員の活用方法を検証し、公表する。
- ・科学に関する夢と期待を育み、理科、算数・数学への興味・関心を高めることができるよう、県内外の科学技術系コンテストへの参加や科学の甲子園への出場など、児童生徒が学習によって得た科学的知識や課外活動等で深めた科学研究を発表し、活躍できる機会を確保する。
- ・学童保育施設だけでなく、地域の公民館や図書館等を活用した出前講座を行い、全ての子どもたちが科学技術に触れることのできる機会を提供する。